

令和6年度 第1回八戸産学官連携推進会議 議事録

日時 令和6年9月20日（金）14:00～14:45

場所 八戸市庁別館2階 会議室C

○司会（総合政策部総合政策課 安原次長兼課長）

ただいまから「令和6年度 第1回八戸産学官連携推進会議」を開催いたします。はじめに、本日お配りした会議資料を確認いただきたく存じます。本日の会議資料は、

- ・ 次第
- ・ 八戸産学官連携推進会議名簿
- ・ 席図
- ・ 資料1：令和5年度 第2回八戸産学官連携推進会議 議事録
- ・ 資料2：産学官連携による八戸未来創造中長期計画 進行管理指標集計結果
- ・ 資料3：八戸地域学について
- ・ 資料4：産学官連携による八戸未来創造中長期計画 改定方針（案）について
- ・ 資料5：八戸産学官連携推進会議記者会見 当日資料

となります。過不足等はありませんでしょうか。それでは、議事に入りますので、熊谷市長に進行をお願いいたします。

○熊谷会長（八戸市長）

それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。まず、案件1「令和5年度 第2回推進会議の議事録」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（総合政策課 見付 GL）

それでは、「令和5年度 第2回推進会議の議事録」について、御説明申し上げます。資料1の「令和5年度 第2回八戸産学官連携推進会議 議事録」をお手元にお配りしておりますが、本日は要点のみ御説明いたしますので、詳細につきましては、後ほど御確認いただきますようお願いいたします。前回の議事においては大きく3点、「八戸地域学の開催実績について」、「令和6年度事業計画（案）について」、「八戸産学官連携推進会議設置要綱の改正について」に関して、委員の皆様から御議論いただきました。

まず、八戸地域学の開催実績について、第1回の講義は武輪会頭に、第2回は土屋校長に、第3回は市民病院の今事業管理者にそれぞれ講師を務めていただきまして、学生へのアンケート結果から、8割近い学生から「八戸に対する興味・関心が増した」との評価をいただいたということを御報告したところであります。

次に、令和6年度の事業計画（案）について、1つ目として、八戸地域学を引き続き実施するということで、講義内容が同じ分野に偏らないように、今後は各分野で活躍している民間

企業の方も対象に選定していくことを御説明いたしました。

また、2つ目として、地域のニーズに応じた人材育成や外国人留学生の受入れなどに係る取組を検討するため、市内企業や事業所などを対象にニーズ調査を実施することを御説明いたしました。

また、3つ目として、八戸未来創造中長期計画の見直しについて、令和2年3月の策定から令和7年3月で5年を迎えることから、令和6年度中に計画の見直しを行うことを御説明いたしました。

4つ目として、八戸版地域シンクタンクである「八戸市都市研究検討会」につきましては、昨年度をもって産学官連携推進会議と統合いたしまして、新たに今年度から「事業検討部会」を産学官連携推進会議の下部組織として設置することを御説明いたしました。以上が、前回の議事の主な内容となっております。事務局からの説明は以上でございます

○熊谷会長（八戸市長）

ただいまの説明に対しまして、御質問や御意見はございますでしょうか。御質問等ないようですので、以上でこの案件は終わりにいたします。

続きまして、案件2「令和5年度の進行管理指標集計結果」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（総合政策課 見付 GL）

それでは、「令和5年度の進行管理指標集計結果」について御説明申し上げます。資料2を御覧ください。こちらは「産学官連携による八戸未来創造中長期計画」の進行管理指標のデータをまとめたものでございます。

まず、1枚目は、6つの指針ごとに進行管理指標を定めた一覧でございます。続いて、2枚目以降のグラフを御覧ください。6つの指針ごとに定めた進行管理指標について、各項目の平成30年からの推移をグラフでお示ししております。本日は、特徴的な項目を抜粋して御説明いたします。2ページをお開きいただきまして、1-③「外国人留学生数」についてですが、右側の全体合計を御覧いただければと思いますが、外国人留学生の数は年々増加傾向にありまして、今後も増加が見込まれることが予想されます。

続きまして、3ページにまいりまして、2-②「観光入込客数」及び2-③「プロスポーツ観客数」については、令和2～3年がコロナの影響で減少したものの、令和4年以降は回復の兆しをみせており、今後も増加に向かうものと考えております。

続きまして、4ページを御覧ください。3-②「地元企業就職率」は前年度よりも数値が減少しているところが多く、若者の地元定着への取組を更に強化していく必要があると考えております。

続きまして、6ページをお開きいただければと思います。5-②「高等教育機関の入学者数」でございます。八戸高専さんは大きな変動がなく推移しておりますが、八戸学院大学、八戸学院大学短期大学部、八戸工業大学に関しましては、前年度よりも大きく減少しているところもありますので、入学者確保に向けた取組も強化していく必要がございます。こちらの資料の説明は以上でございます。

○熊谷会長（八戸市長）

ただいまの説明に対しまして、御質問、御意見等はございますでしょうか。

続きまして、案件3「令和6年度 八戸地域学について」について、事務局から説明をお願いします。

○事務局（総合政策課 見付 GL）

それでは、「八戸地域学」について、御説明申し上げます。資料3を御覧ください。八戸地域学の目的でございますが、地域の歴史や文化、地域の産業等を学び、地域への理解や愛着の醸成を図ることで若者の地元定着につなげていくことを目的に、各高等教育機関共通の講義として実施しているものでございます。なお、地域学につきましては、これまではっち広場で実施していたものを、より目的に近い形にするため、各学生に直に講義を聞いていただく機会を作ることから、今年度は各高等教育において実施する予定でございます。

「1. 令和6年度の講義について」ですが、第1回講義は、八戸学院大学の水野学長に講師を務めていただきまして、「“八戸型自給圏”の構築を目指して」をテーマに、11月18日（月）午後2時40分から八戸高専で行います。

第2回講義でございますが、株式会社八戸インテリジェントプラザの松坂常務取締役社長を講師に、「八戸地域の産業」をテーマとして、11月25日（月）午前10時30分から八戸学院大学において行います。

第3回講義でございますが、MIJEC（NPO 法人みちのく国際日本語教育センター）の馬場理事長を講師に、「多文化共生・国際交流」というテーマで、12月4日（水）午前10時30分から八戸工業大学において行う予定としております。

なお、熊谷市長におかれましては昨年度と同様、八戸学院大学における「地域文化論」におきまして講師を務める予定になっておりますので、その際に動画の撮り直しを行う予定でございますので、御報告させていただきます。

次に、「2. 講義の進行及び配信について」ですが、昨年度と同様に講義時間は約60分を想定しております。当日の進行は、各高等教育機関において務めることといたします。講義動画につきましては、当日にビデオカメラで撮影した映像を動画編集いたしまして、各校に配信させていただきます。また、今年度から各高等教育機関で実施することになりますので、市民の皆さんへは今年度より、過去の地域学の動画も含めて八戸市ホームページ及び公式 YouTube チャンネルにおいて公開をさせていただき、広く市民の方にも聴講していただく予定であります。

なお、昨年度と同様に、学生アンケート調査も実施いたします。事務局からの説明は以上でございます。

○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございます。ただいまの説明について、御質問や御意見はございますでしょうか。

○武輪副会長（八戸商工会議所 会頭）

今回、高等教育機関で開催するというのですが、基本的にはこれまでどおり録画・収録したものを各教育機関で見させていただくということですが、開催場所での聴講者はいないのでしょ
うか。開催場所の高等教育機関では、リアルで聴講するのでしょうか。

○事務局（総合政策課 見付 GL）

開催場所の各高等教育機関の学生を対象に講義をしていただくということになりますので、
八戸学院大学さんで実施した場合は八戸学院大学の学生さんに聴講していただくということ
になります。

○武輪副会長（八戸商工会議所 会頭）

一般の方で希望者があればそこに入れるのか、それはなしなのか。

○事務局（総合政策課 見付 GL）

それにつきましては事業検討部会で検討いたしました、結果的には「なし」ということに
しようと思っておりました。誘導やアナウンスなど、大学の方に負担をかけてしまうという
ところもありますので、映像を YouTube で公開するというに変えていきたいと思ってお
ります。

○武輪副会長（八戸商工会議所 会頭）

わかりました。

○熊谷会長（八戸市長）

ほかにございませんでしょうか。以上で、この案件は終わりにいたします。

続きまして、案件4「産学官連携による八戸未来創造中長期計画改定方針（案）」について、
事務局から説明をお願いいたします。

○事務局（総合政策課 見付 GL）

それでは、「産学官連携による八戸未来創造中長期計画改定方針（案）」について、御説明申
し上げます。資料4を御覧ください。

まず、「1 改定の趣旨」でございますが、産学官連携推進会議では、令和2年に「八戸未来
創造中長期計画」を策定しておりまして、産学官の各機関が地域の現状や課題などを共有し、
将来ビジョンを掲げ、その実現に向けて連携して取り組んでまいりました。中長期計画では、
必要に応じて5年ごとに見直しを行うこととしており、人口減少などの課題に対応していく
ためには、若者の地元定着の促進と地域の活力を生み出す人材確保に向けて効果的な取組を
展開していく必要があります、社会情勢等を踏まえた、より実効性のある中長期計画とするため
改定を行うものでございます。

次に、「2 改定の全体方針」でございますが、これまでの中長期計画を前提としつつ、各種
データを更新するとともに、若者の地元定着に向けた具体的な事業・取組を位置付け、今後の
産学官連携を更に発展させる計画にしていきたいと思いますと考えております。

次に、「3 各章の改定方針」でございますが、序章及び地域の現状をまとめた第1章、地

域課題をまとめた第2章については、近年の社会情勢を踏まえた必要な修正を行ってまいります。第3章は、2045年までの中長期的な将来ビジョン・数値目標を掲載しておりますが、目指すべき将来の方向性について大きな変更を要するものではないため、今回の改定では修正しない方向で検討しております。第4章は、第3章の将来ビジョン・数値目標を達成するための「6つの指針」を掲載しておりますが、今回の改定で、新たに6つの指針に紐づく具体的な事業・取組を位置付けることで、実効性をもった中長期計画に修正してまいりたいと考えております。第5章につきましては、中長期計画の進行管理や管理方法などを掲載している章でございますが、今年度より会議の事務局を八戸市へ移行するとともに、事業検討部会を設置したことに伴い、体制変更を踏まえた修正を行ってまいります。

最後に、「4 改定スケジュール（案）」でございますが、本日の会議で、ただいま御説明申し上げた改定方針（案）について審議・決定いただき、事業検討部会において検討してまいります。来年2月に開催される第2回事業検討部会におきまして、次期中長期計画（案）にお示しいたしまして、審議・決定していただきたいと思いますと考えております。事務局からの説明は以上でございます。

○熊谷会長（八戸市長）

ただいまの説明に対して、御質問や御意見等ございますでしょうか。

それでは、案件5「八戸産学官連携推進会議 記者会見」について、資料5のとおり実施させていただきますが、事務局からの説明をお願いいたします。

○事務局（総合政策課 見付 GL）

それでは、「八戸産学官連携推進会議 記者会見」について、御説明申し上げます。資料5を御覧いただければと思います。

本日の会議終了後、午後3時20分より、本館2階庁議室で記者会見を実施いたしますが、こちらがモニターに映す資料でございます。本日の記者会見は、今年度から事務局を八戸市に移管し、市長のリーダーシップのもとで進める若者定着や人材不足などの地域課題の解消に向けた八戸産学官連携推進会議の今後の方向性や各機関の取組について、地域の皆様に広く周知するために行うものでございます。記者会見全体の流れについてですが、事務局が司会進行を行い、案件2つについてそれぞれの機関から御説明いただいた後、質疑応答の時間を設けております。

はじめに、案件①「八戸産学官連携推進会議の今後の方向性」について、熊谷市長より御説明いただきます。次に、案件②「今後の取組」について、各機関より御説明いただきます。発言順は、資料5に記載のスライド順のとおり、熊谷市長→水野学長→杉山学長→坂本学長→土屋校長→武輪会頭としております。案件②終了後、質疑応答の時間を設けておりますので、記者から質問があった機関は御回答いただきますようお願いいたします。事務局からの説明は以上でございます。

○熊谷会長（八戸市長）

ただいまの説明に対して、御質問や御意見等ございますでしょうか。それでは、記者会見の

方もよろしくお願いいたします。

次に、「その他」となりますが、水野学長より「地域を学ぶ教育の地域連携」について、皆様に御報告があるとのこと。水野学長、よろしくお願いいたします。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

よろしくお願いいたします。1点御報告と1点御検討いただきたいという内容になります。今日、資料が準備できておりません。申し訳ありません。口頭での報告と検討のお願いということになります。

この地域に、NPO 法人「地域活性化教育支援ネットワーク（通称 REN）」という組織があります。八戸工業大学の前学長の長谷川先生が理事長を務められているんですが、今年の2月にシンポジウム等を開催して、この法人から、地域を学ぶ教育に関する意見交換や共有する場を設けたいという相談がありました。各高等教育機関の代表の方にもお問い合わせがいつていると思います。それを受けまして市長からも、REN とこの産学官連携推進会議をつなぐことを提案しているというお話を聞いていました。市長覚えておられないかもしれないです、極めて短い時間、情報でしたけれども。その思いを受けまして、この連携会議と REN の活動をしっかりつなげて情報共有しながら、この地域を学ぶ教育をする。特に REN が考えているのは、小学校・中学校・高校そして高等教育・大学と、縦をしっかり結び付けながら意見を交換して今後の未来を描きたいという提案でしたので、とりあえず今年度は会場の設定、この会議との連携を考えるということで、私が今回この場をお借りして、推進会議の代表としてこの会議に出席させていただきたい。そういう方向で良いだろうかということを御検討いただきたいことが1点。

2点目は、来年度に向けてもこの活動は続いていきますので、地域あるいは県の方角も考えたときに、県も「あおもり人材育成・県内定着促進協議会」を持っていますので、県のレベルでは高専の土屋校長がこの地域の代表をされているということもあるので、来年度に向けては高専さんをお願いして、地域の連携もしっかり把握していただいて、この会との情報共有をしていただけないかなということを提案したい。今年度と来年度に向けて、どのような体制でこの活動と連携していくのかということで、御提案させていただきます。

○熊谷会長（八戸市長）

御提案ありがとうございます。1点目は、REN の活動に、この会議の代表として水野学長が参加してもいいのかということが第1点目。第2点目の県との連携先というのは REN のことですか、それとも。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

ごめんなさい。それは別問題ですけど、県もそういう会議を持っているので。その代表はこの地域では、僕の理解では高専さんだと。

○事務局（総合政策部政策推進課 安原次長兼課長）

よろしいでしょうか。事務局の方からお答えいたしますけれども、今の高専さんが事務局

を務めているという団体の話だったんですけれども、本来の組織としては、COC+の関係で弘前大学が県全体の事務局を持っている地元定着の団体が以前ありまして、そちらはつい最近解散したと我々は聞いていまして。タイトルが「青森創生人材育成・定着推進協議会」。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

古い方がね。新しい方。

○事務局（総合政策部政策推進課 安原次長兼課長）

これはCOC+。平成27年度からスタートして、そちらが発端で設立された団体となっておりまして、その八戸支部の代表、事務局を八戸高専さんが以前務めてらっしゃったそうなんです。が、県が7月に、県全体の人材定着の産学官連携の協議会を作ったのを受けて、先ほど御説明した定着推進協議会の方はどうやら解散したと聞いております。ですので、八戸高専さんが八戸支部の事務局をやっているという部分も今はないという形で我々は理解しておりましたので、問題ないかと思います。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

ただ、生まれ変わって新しい促進協議会ができて、その生まれ変わった協議会でも高専さんが引き継いでなかったっけ。

○土屋委員（八戸工業高等専門学校 校長）

一応、引き継いでいます。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

見付さん、会議に参加していらっしゃいましたよね。

○事務局（総合政策課 見付 GL）

はい、参加しておりました。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

そういうことだと僕は理解していましたのでということで、やっぱり高専さんに担っていただいたらどうかということをおもった次第です。

○事務局（総合政策部政策推進課 安原次長兼課長）

この件に関しては、事前に長谷川元学長からお話を聞いておりまして。我々が伺ったのは、以前のCOC+のときのお話ということで聞いておりましたので、そこに関してはそういう動きでしたので。

そうしますと、今、新たに県で設立された協議会での動きを、水野学長が念頭に置かれているということであれば、そこは改めて我々事務局の方で確認をして、後ほど御連絡させていただきますので。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

ありがとうございます。では、まず今日は10月31日に予定されている会議に、代表として出させていただきますというところを、御確認というか御意見いただきたいと思います。

○熊谷会長（八戸市長）

RENの会議ですね。10月31日のRENの会議に、この会議の代表として水野学長が出席されたいということなのですが、これについてはいかがでしょうか。

○各高等教育機関

異論はございません。

○熊谷会長（八戸市長）

よろしいですか。問題はないのか。

○事務局（総合政策部政策推進課 安原次長兼課長）

はい、問題ないかと思います。我々、産学官連携推進会議でいうものではないと思いますので、皆さんから御意見を伺って特に問題がなければ、よろしいのではないのでしょうか。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

この会議は年明けにもありますよね。

○事務局（総合政策部政策推進課 安原次長兼課長）

はい、次回は2月です。

○水野委員（八戸学院大学 学長）

そのときにその内容をきちんと報告させていただくという形で。それで、来年度以降どう対応していくかということも、また議論させていただければと思います。

○熊谷会長（八戸市長）

それでは、会議の代表として水野学長に出席をしていただくということで御了承いただいたことにいたします。ありがとうございました。

続きまして、坂本学長より「HITSB産学官連携雇用促進計画」について、皆様に御説明があります。坂本学長、お願いいたします。

○坂本委員（八戸工業大学 学長）

私の方からは、今日の記者会見資料「八戸工業大学の取組について」の中で、右下のところに「HITSB産学官連携雇用促進事業」というのが書いてございます。今日の会議の資料の中にも、外国人留学生が増えてきたというような話がございまして、背景としては日本の労働力が不足していて、なんとしても人材を確保しなければならないという課題が地方においても

非常にあるわけでございます。HITSB のプロジェクトは端的に言いますと、労働力確保のために、永住可能な在留資格取得ができる外国人労働者の育成プログラムでございます。今日は記者会見資料の数行しか資料がないんですが、簡単に私の方から内容についてお話いたします。

この HITSB というのは、登録支援機関の「TSB ケアアカデミー」というところがあるんですけども、そこと八戸工業大学の HIT と併せて HITSB にしたということで商標登録もして動いているもので、青森県内外の企業、八戸市そして TSB との産学官連携プログラムとなっております。この内容は、留学生に6か月の専門教育を私どもの方で提供いたします。最長5年間働ける「特定技能1号」の取得を経て、我々の大学を終了したあとは、就職先の国内企業で、永住可能な資格の「特定技能2号」を目指すということになっております。実際、今年度からスタートしておりまして、4月にミャンマーから建築土木コース、自動車整備コースへ合計8名の留学生を迎えております。7人合格して、残り1人は9月30日にもう一回試験を受けるということになるんですけれども、この辺はどうなるか私はちょっと詳しく分かりませんが、前期8名。10月からは、同じミャンマーから11名、工業製品製造業分野コースで受け入れるということでスタートするところでございます。

八戸市さんとは、安価な市営住宅を提供いただいているという連携の内容があるんですけども、この取組というのは国内でも先駆けて実施しているものでございまして、様々な国、自治体、企業から熱い視線が向けられております。今後拡充して、労働力不足、人口減少などの課題解決に向けて貢献していきたいと考えているところでございます。実際、後期は11名受け入れると言っているんですが、TSB の方からは20名以上が希望されていたという経緯がございまして、突然そこまではできないので11名という形になりましたけれども、これから宿舍というか学びの拠点となるところを、さらに拡充する支援を市からいただければと思いついて、今日は紹介させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

○熊谷会長（八戸市長）

ありがとうございます。ほかに皆様からあれば。

○土屋委員（八戸工業高等専門学校 校長）

坂本先生にちょっとお聞きしたいんですけど、今、HITSB のインターシップのお話がございました。その上に「履修証明プログラム」というのがあって、3つのプログラムが書かれているんですが、我々もこの履修証明プログラムをやりたいなと思っているところなんですけれども、受講者が今、どのぐらいいらっしゃるかお分かりになりますか。

○坂本委員（八戸工業大学 学長）

はい。一番上の土木の方は、3年間で回して60時間以上確保するということになるんですけれども、「①HIT 土木工学」は2021年にスタートして1回目の修了生が終わって、多分15～16名だったような気がしております。次の年また入ってきて継続して、また今年入ってきてという形でローテーション組んで続けております。「②HIT 海洋学」の方は数名、1～2名と聞いております。「③HIT 機械工学」は25名程度だったと思います。以上です。

○土屋委員（八戸工業高等専門学校 校長）

どうもありがとうございます。例えば、③なんかは機械工学を学んでこなかった社会人が対象ということで、多分、こういうのはすごく社会にニーズがあるんじゃないかなと思います。我々のところにも、金属工学を学んでこなかったけど、現在、金属精錬系に勤めていて、やっぱり基礎的なことを学び直したいな、今風の言葉でいえば「リスキリング」というやつですけれども。そういうニーズが社会にあるんだと思うんです。できればこういう会議の中で、例えば八戸市さんが何かリスキリングやりたい方に援助しますよとか、多分それなりのお金を取るんですよ。

○坂本委員（八戸工業大学 学長）

そうですね。

○土屋委員（八戸工業高等専門学校 校長）

そういうようなことをやるとニーズの掘り起こしと、社会からいろんな要望を聞いてみんな学び直して、それによって我々高等教育機関も活性化してきて社会と接点ができるので、このあたりの情報を共有しながら次のステップに進んでいければ建設的かなと思いました。

○熊谷会長（八戸市長）

はい、受け止めさせていただきます。

○事務局（総合政策部政策推進課 安原次長兼課長）

リスキリングに関しては国の方も、成長戦略の一つとして位置付けておりましたので、そういう意味では我々も今後、検討していかなければいけない課題であると思っておりました。今回の御意見をいただいて検討してまいりますので、ありがとうございます。

○熊谷会長（八戸市長）

ほかにございませんでしょうか。それでは、以上で「その他」を終わります。

最後に、これまでの案件説明・全体をとおして何か御意見、御質問はないですね。それでは、以上で終わります。事務局には、本日の会議を踏まえつつ取組を進め、次回の会議にて進捗等を御報告願います。

それでは、司会へ進行をお返しします。

○司会（総合政策部総合政策課 安原次長兼課長）

ありがとうございました。最後に、今後のスケジュールの確認でございますがけれども、次回は令和7年2月10日（月）の開催を予定しております。開催が近づきましたら、改めて御案内申し上げますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、「令和6年度 第1回八戸産学官連携推進会議」を終了いたします。ありがとうございました。